

自主防犯ボランティア

自分たちの地域を守る



自分たちの地域を安全で安心して住めるように自主的に防犯活動を行う、自主防犯ボランティアが増えてきています。

その背景には、子どもを狙った犯罪が社会問題化していることや、振り込め詐欺など身近で起こりうる犯罪が増加したことが要因といえます。

もちろん、警察では、犯罪の多発する時間帯、場所に対するパトロールを強化するなど、街頭犯罪等抑止対策に全力を挙げて取り組んでいます。警察のみの力によって、安全で安心なまちづくりは実現できません。

市内でも「自分たちの地域は自分たちで守る」といった意識の高まりから、各団体が

防犯マップ作成などアイデアを出し合い、地域の安全を守るために、さまざまな活動を繰り返し広げています。

最近特に、子どもたちが安全に通学が出来るようにと登下校時に街頭に立って見守る団体や、車に青色回転灯を取り付けてパトロールをしている団体が設立されています。

今月号では、こうした活動を紹介するとともに、自主防犯について考えてみたいと思います。

子どもを守る

◆防犯パトロール隊ボランティア部隊の活動

吉備国際大学ボランティア部の有志からなる防犯パトロール隊ボランティア部隊。昨年2月に結成され、地域の安全のために目を光らせています。隊員は50人近くでしたが、まもなく4年生が卒業するため、現在約30人で活動しています。

同隊は広島、栃木県などで起きた子どもを狙った事件を受け、普段の活動に加え昨年

防犯パトロール隊
ボランティア部隊

代表
吉備国際大学社会福祉学科
石崎輝正さん(2)

小高下町
(山口県宇部市出身)



ボランティアの活動をする中で、本当に求められていることをやっているのか疑問を持つようになりました。そんな時、子どもが被害に遭う事件が多くなっていることから、今の活動を始めることにしました。隊員たちは周りの人が困っていたら、少しでもその人の役にたちたいという思いで活動しています。地域のイベントなどへも出向き、振り込め詐欺被害防止の寸劇などでもしたいと思っていますので、ご希望の場合は高梁市まちづくりボランティアセンター事務局(市民課地域振興係内☎0254)を通じてご連絡ください。

末、登校中の子どもたちを見守ろうと毎日街頭に立って声掛け運動を行いました。今年に入ってから試験期

間が終了した2月1日から活動を再開し、当面は、都合の付く日に、継続して活動していくことにしています。



隊員5〜12人が「ボランティアパトロール」など英語で書かれた紺色の揃いのベストを着用して、子どもたちの通学時間帯の午前7時20分から8時まで高梁駅前大通りの交差点や地下道周辺に立ちます。「おはようございます」とあいさつし、登校中の子どもたちを見守ります。

この日参加した同大精神保健福祉学科3年正村侑子さん(2)は「朝、眠くて寒いですが、子どもたちからのあいさつで元気をもらっています。地域の人たちも声をかけてくれますよ」と話します。「見守ってくれてありがたいです。あいさつを交わすといい気分になります。できればずっと続けてほしいです」と同隊の活動に安心して登校する高梁小学校4年渡辺小暖さん。

同小学校校長小倉浩さん(68)は「学校では毎日、職員が分担して児童に付いて下校指導をし、民家の近くまで送っています。十分とは言えませんが、学校ではできないところを学生ボランティアのほかに

も老人会や婦人会、保護者の皆さんが、協力してくださっており大変感謝しています。子どもの心には、こうした皆さんの温かい支援に、地域への愛着や感謝の気持ちが根付いてきているのでは」と話しています。

同隊は、子どもを守る活動のほか、備中高梁駅を中心とした市街地の夜のパトロールや落書き消しを行い、また、高齢者福祉施設などを訪問し、振り込め詐欺被害防止などの寸劇を取り入れるなどして高齢者が被害に遭わないように注意を呼びかけたりしています。

健福祉学科3年正村侑子さん(2)は「朝、眠くて寒いですが、子どもたちからのあいさつで元気をもらっています。地域の人たちも声をかけてくれますよ」と話します。「見守ってくれてありがたいです。あいさつを交わすといい気分になります。できればずっと続けてほしいです」と同隊の活動に安心して登校する高梁小学校4年渡辺小暖さん。

